

地域社会との緊密な連携を築く

地域の中の学校

東海市立名和小学校 P T A

1 はじめに

東海市は、知多半島の北部に位置し、鉄と洋ランが有名な町である。また、地域の偉人である江戸時代の儒学者「細井平洲」先生の生まれ育った町であり、各小中学校でその教えを大切にした教育活動を行っている。

本校は、明治37年の開校以来、今年で創立120年を迎える歴史と伝統ある小学校で、地域との繋がりも深い。児童数804名、32学級（特別支援学級6学級）の大規模校である。

本校の教育目標である『知・徳・体の調和と統一のとれた、心身ともに健康で人間性豊かな児童の育成』のもと、この地に古くから伝わる「猩猩メッタ」をモチーフにした「名和っこ猩猩踊り」を教育活動の中心に添えている。本年度も、P T Aや地域の方のご支援をいただき「にっぽんど真ん中祭り」で発表した。



【名和小を見守る大楠の木】



【名和っこ猩猩 にっぽんど真ん中祭り】

2 研究への取組

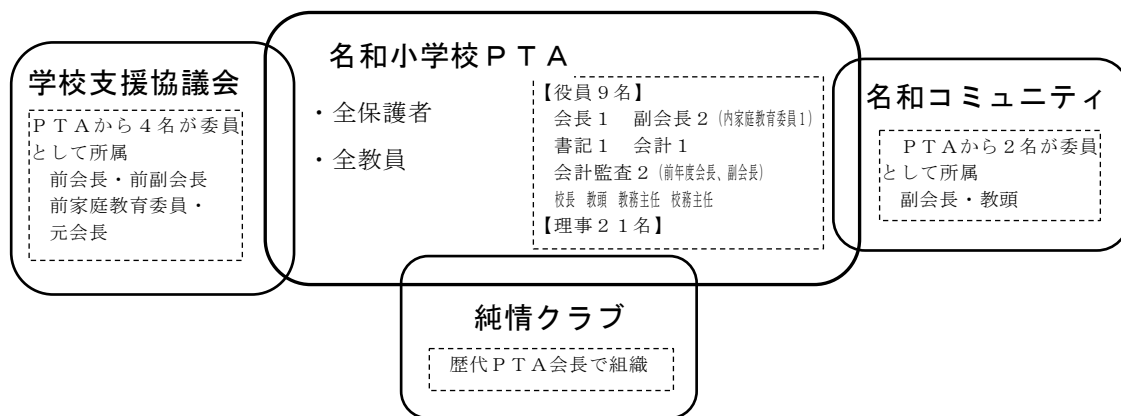
(1) 研究のねらい

「地域の子どもは地域で育てる」と言われるように、本校も地域の中の学校として、地域、家庭と連携しながら教育活動を進めている。子どもたちの笑顔あふれる学校を築くために、地域・家庭・学校が連携・協働して子どもたちの健やかな成長を見守っていくことが大切だと考える。

同時に、P T A活動の在り方を見直しながら、地域とのつながりも大事に考え、子どもたちのために地域の人材や素材を生かした取り組みを進めていきたい。

(2) P T Aの組織と他組織との関わり

本校P T Aの組織は次のとおりである。学校支援協議会、名和コミュニティ、純情クラブ（歴代P T A会長で組織）とも連携を取り、地域の中で手を携えながら子どもたちを育てていく関係性ができている。



3 実践活動の概要

(1) 各専門部の主な活動

① 広報部

年2回（7月、3月）にPTA新聞「なわ」を発行し、掲載内容の計画やデザイン等を部員と教務主任が協議し、作成している。子どもたちの活躍やPTA各専門部の取組、教職員の紹介を掲載し、学校やPTA活動への理解を深めるための一助となっている。

② 研修図書部

毎年10～11月に読み聞かせボランティアグループ「そらいろのたね」とともに大型絵本の会（紙芝居）を実施している。当日は「そらいろのたね」の皆さんが体育館ステージ上で実演し、PTA研修図書部の委員が、会場準備や参加児童の呼びかけを行っている。多くの児童が体育館に集まり、地域の方と交流を深め、心あたたまるおもてなしを楽しんでいる。

③ 環境保健部

年2回（6月、12月）の学校保健委員会に参加している。今年度6月に行われた第1回の会では、「生活習慣を整えよう～3つの約束 早寝 早起き 朝ごはん～」をテーマに児童の発表を見たり、講師の話を聞いたりして保護者の立場から子どもたちに具体的なアドバイスを行った。子どもたちは、先生からもらうアドバイスとは違った保護者からのアドバイスに真剣に耳を傾けていた。

④ 生活交通部

交通当番の日程決めや当番表作成等、子どもたちの通学をより安全・安心にするための活動を行っている。本校の通学路は、交通量の多い幹線道路や生活道路が多いため、全世帯の保護者で交通立哨当番を決め、登校時の見守りを行っている。保護者の他にも、上名和シニア連合等の地域の方や交通指導員も登下校時に立哨していただいている。

(2) 他組織との連携

学校支援協議会が主催となって、学校やPTAと連携してボランテ

ィアを募り学校支援や学習支援を行っている。

今年度実施したボランティアは以下のとおりである。

	支援名	時期	備 考
①	読み聞かせ	通年	元 P T A 家庭教育委員を中心としたグループ
②	ウサギの飼育	通年	地域の方のアドバイスを もとに、休日や長期休業中 に児童と保護者が当番制 で餌やりや小屋の清掃
③	体力テスト	5 月	P T A による測定補助
④	田植え	6 月	純情クラブの協力
⑤	飯ごう炊飯(林間学習に向 けて)	6 月	事前学習でカレー作り、飯 ごう炊さんを補助
⑥	にっぽんど真ん中祭り	8 月	純情クラブや P T A によ る道具の運搬など
⑦	ミシン学習	9 月	P T A による学習補助
⑧	町たんけん(校外学習)	1 0 月	P T A による見守り
⑨	稲刈り	1 0 月	純情クラブの協力のもと
⑩	もちつき	1 2 月	純情クラブや P T A の協 力のもと実施

特に、田植え(表中 4)、
稲刈り(表中 9)、もちつき
(表中 1 0)については、純
情クラブ(歴代 P T A 会長
で組織)と連携し、実施し
ている。

今年度は、6 月 9 日(日)
に児童、保護者、P T A 役
員、純情クラブ、教員等で田



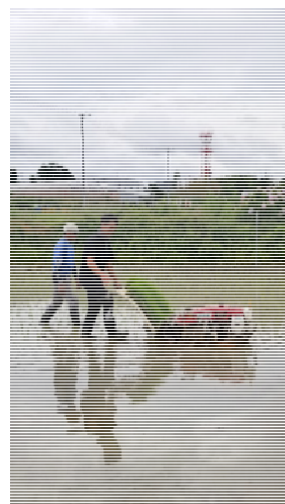
【専用の道具を使っの田植え】

植えを行った。純情クラブに所属する元 P T A 会長の水田を借りて、
全員がどろんこになりながら手植え専用の木枠を使って苗を植えた。
初めて見る木枠の道具に関心が高まり集中して取り組む子、水田に足
をとられ途中で長靴を脱ぎ裸足で取り組む子、水田にいる虫を追いか
け出す子など、子どもらしい表情を見ることができて、見守る大人た
ちも自然と笑顔があふれた。また、大人は機械を使って田植えをさせ
ていただき、お父さんや先生の普段見せない真剣な姿を見た子どもた
ちから歓声が上がっていた。この時のお父さんの誇らしげな姿が印象
的だった。

手植えは子どもにとってはなかなか重労働であったが、児童と保護者・教員等の大人と一緒に活動する様子は、学校では見られない、地域に出てこそその学びの場となった。

手植えをした6月から4ヶ月後の10月、稲穂も実り、いよいよ稲刈りの時がやってきた。

田植えから引き続き参加した児童や保護者もいれば、初めて参加する人もいる中で行われた当日、片手で簡単に持てた稲がこんなにも大きく成長するのかと感嘆の声とともに稲刈りが始まった。



【機械を使っの田植え】

子どもたちにとって、慣れない鎌を使い、力加減を考えながら稲の束を刈ることは容易ではない。しかし、大人に教わりながら一緒に作業を進めることで、徐々に鎌を器用に使いこなすようになり予想以上のスピードで稲が刈られていった。2グループに分かれ、田んぼの両端から中央に向かって稲刈りが進み、最後に中央で2グループが出会い、すべての稲が刈り取られたときには、自然と大きな歓声と拍手が起こった。後日、ある参加した子どもに稲刈りの感想を聞いたところ、このときの感動が忘れられず、「また来年も参加したい」と晴れやかな表情で語ったことが印象に残っている。



【親子での稲刈りのようす】

刈った稲は今後、田んぼの持ち主の手で脱穀等を経て餅米となって小学校へ搬入され、12月のもちつきで使用される。

6月に始まった田植えから、12月のもちつきに至る半年間、学校を支援くださる方々と学校を出て地域の中で学ぶ経験は、子どもと大人の間に会話と笑顔をもたらした。

4 おわりに

名和小学校には地域に愛される土壤があり、子どもたちも地域行事に積極的に参加している。これからも「地域の中の学校」として、PTAや学校支援協議会、純情クラブ等と連携をとり、地域のコミュニティの一躍を担っていきたい。そして、子どもたちの健やかな成長を地域と共に見守っていく学校でありたい。



【オリジナルキャラクター】

【やまっ子 うみっ子】